

# 市議会だより

第94号  
平成27年9月  
定例議会

発行日／平成27年11月18日 発行／岩手県陸前高田市議会 編集／議会広聴広報特別委員会



議会の構成…………… 2～5 ページ

議案の審議・結果(臨時会)…………… 5

一般質問…………… 6～13

議案の審議・結果(定例会)…………… 14

請願審査・発議…………… 15

復興のうごき・議会のうごき…………… 16



中尊寺本堂前で奉演された槻沢鑑念仏剣舞（横田町）

9月定例会

## 平成26年度決算を認定

改選後初の定例会は「決算議会」となり、通常より1カ月ほど遅れた10月1日から20日間にわたって開かれました。提出議案のうち、平成26年度の一般会計歳入決算額は108.9億円（前年度比82.8%）で、歳出決算額は105.4億円（同83.9%）。市復興計画の展開期初年度は、1300億円超の予算額の15%程度が翌年度へ繰り越されました。このほか、特別会計決算を含めた全34議案を原案可決、認定しました。

復興関連では、部室と柔剣道場工事を追加した高田東中学校新築工事の変更請負契約締結議案などで、27年度の一般会計補正予算には、ふるさと納税活用事業費をはじめ、各地区公民館を新築・改修した自治会館等整備事業費などが盛り込まれました。

一般質問には、新人議員を含む12議員が登壇。復興関連事業の進捗状況や人口減少対策、地域活性化策、医療福祉施策など、当面する市政課題を巡って市当局と議論を交わしました。

# 新体制スタート(第16期)

第3回市議会臨時会が、9月18日に開催され、正副議長をはじめ、各常任委員会などの議会構成が決まりました。第20代議長には伊藤明彦議員、第21代副議長には及川修一議員が就任しました。



議長  
伊藤 明彦



副議長  
及川 修一

## 正副議長就任の挨拶

市民の皆様には、日ごろの議会活動に対しましてご理解とご支援をいただき、心から厚く御礼申し上げます。

さて、私たちはこの度、議長及び副議長に就任いたしました。身に余る光栄と存じますとともに、その責務の重大さに身の引き締まる思いであります。

東日本大震災からの復興が進む中において、議会においても市民の皆様からの要請を的確にとらえ、市当局とともに本市の新しいまちづくりのため全力を挙げ、まい進していく所存であります。



もとより微力ではありますが、地方自治の進展のため更なる精進をする覚悟でありますので、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 総務常任委員会

企画部、総務部、復興対策局、防災局、会計課、消防本部、消防署、選挙管理委員会及び監査委員の所管に属する事項並びに他の常任委員会の所管に属さない事項を担当します。

委員長  
福田 利喜



小友町字谷地館  
昭 33.5.6

委員  
菅原 悟



米崎町字松峰  
昭 38.5.20

副委員長  
畠山 恵美子



横田町字舞出  
昭 45.9.6

委員  
清水 幸男



広田町字六ヶ浦  
昭 22.11.7

委員  
菅野 定



矢作町字東角地  
昭 30.1.19

委員  
藤倉 泰治



矢作町字諏訪  
昭 25.2.9

# 議会運営委員会

円滑な議会の運営を期するため、議会運営の全般について協議し、意見調整を図る場として設置されています。

- 委員長 菅原 悟
- 副委員長 大坂 俊
- 委員 菅野 定
- 委員 清水 幸男
- 委員 福田 利喜
- 委員 藤倉 泰治

# 議員定数

- 条約定数 18人
- 現 員 18人
- 議員の任期  
平成27年9月11日～  
平成31年9月10日

# 党派別議員数

- 日本共産党 3人
- 無所属 15人
- 計 18人

## 教育民生常任委員会

民生部、福祉事務所及び教育委員会の所管に属する事項を担当します。



委員  
蒲生 哲

広田町字小長洞  
昭 38.3.29



副委員長  
鶴浦 昌也

高田町字鳴石  
昭 37.2.15



委員長  
大坪 涼子

米崎町字神田  
昭 25.8.31



委員  
及川 修一

小友町字鳥越  
昭 31.5.23



委員  
菅野 稔

気仙町字水上  
昭 21.5.20



委員  
丹野 紀雄

高田町字鳴石  
昭 18.1.1



委員  
三井 俊介

広田町字赤坂角地  
昭 63.12.23



副委員長  
佐々木 一義

高田町字中和野  
昭 28.4.25



委員長  
大坂 俊

気仙町字二日市  
昭 26.4.10



委員  
伊藤 明彦

矢作町字袖野  
昭 29.9.26



委員  
伊勢 純

広田町字蒲田  
昭 42.7.24



委員  
中野 貴徳

竹駒町字滝の里  
昭 45.8.5

## 産業建設常任委員会

農林水産部、建設部、都市整備局、水道事業所及び農業委員会の所管に属する事項を担当します。

### 年齢別議員数

年代	～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳～	平均年齢	最高齢者	最年少者
人数	1	3	5	8	1	56.8 歳	72 歳	26 歳

### 当選回数別議員数

回数	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回
人数	5	5	3	3	2



# 議案の審議・結果

## 〈第3回臨時会〉

市議会議員選挙後初めての議会が、9月18日に開催され、正副議長選挙、各委員の選任のほか、報告1件、議案2件の審議が行われました。

正副委員長の選挙に当たっては、本会議に先立って議員懇談会を開催し、所信表明が行われました。

本会議での投票の結果、議長選挙では、伊藤明彦議員14票、大坂俊議員4票、副議長選挙では、及川修一議員11票、

清水幸男議員6票、無効投票1票となりました。

また、常任委員会、議会運営委員会の委員の選任、正副委員長の互選、広域連合議会等の各議員の選挙も行われました。

提出議案及び審議結果 (平成27年第3回臨時会) 9月18日		
報告第1号	防災集団移転促進事業月山住宅団地整備工事及び月山住宅団地防災集団移転関連道路整備工事の変更請負契約に関する専決処分の報告について	報 告
議案第1号	監査委員の選任について	同 意
議案第2号	教育委員会の委員の任命について	”

# 特別委員会を設置

第3回定例会において、2つの特別委員会が設置され、正副委員長が選出されました。

## 復興対策特別委員会

東日本大震災からの復興対策全般に係る諸調査のため設置されました。

本委員会は、議長を除く全委員が委員となっています。  
委員長 及川修一  
副委員長 福田利喜

また、本委員会には3つの小委員会が設置されました。

### 広聴小委員会

小委員長 藤倉泰治  
副委員長 大坂俊  
委員 丹野紀雄  
同 佐々木一義  
同 大坪涼子  
同 清水幸男

## 議会広聴広報特別委員会

市議会だよりの編集発行、ICTを活用した議会情報の発信及び議会報告会の企画運営等、議会の広聴広報全般に係る諸調査のため設置されました。

本委員会は、議長を除く全委員が委員となっています。  
委員長 及川修一  
副委員長 藤倉泰治

### 広報小委員会

小委員長 菅野稔  
副委員長 鶴浦昌也  
委員 嶋山恵美子  
同 中野貴徳  
同 伊勢純  
同 菅野定

### ICT小委員会

小委員長 福田利喜  
副委員長 蒲生哲  
委員 三井俊悟  
同 菅原

# リアス・ハイウェイ早期実現大船渡大会

三陸沿岸都市会議主催による「リアス・ハイウェイ早期実現大船渡大会」が10月9日、大船渡市民文化会館大ホールで開催されました。復興に向けて三陸リアスの大地を一つにつなぐいのちの道と題し、北は八戸市から南は気仙沼市より約900人が参加。東日本大震災時に「命の道」としての役割を果たした三陸沿岸道の整備促進を目的としています。

一般財団法人・国土技術研究センター国土政策研究所長の大石久和氏が「道路インフラとは何なのかインフラストラクツの考え方と評価について」と題し講演。7市の首長がステージに登壇し、「最後の区間がつながるまで、しっかりと運動を続けていく」などと、それぞれに決意を語りました。



首長が決意を表明

# J R大船渡線、定住促進、防災対策などの課題で論戦

10月6日～8日までの3日間にわたり、12人が登壇

登壇順

<p>鵜浦昌也 (創生会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 マイナンバー制度について</li> <li>2 地方創生事業の進ちょく状況について</li> <li>3 小中学生の学力向上と本市の教育大綱について</li> </ol>
<p>及川修一 (新風)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本市の財源見通しについて</li> <li>2 J R大船渡線復旧方針案について</li> <li>3 新しいコミュニティのあり方について</li> </ol>
<p>丹野紀雄 (翔英会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 区画整理事業の進ちょくと課題について</li> <li>2 消防団の現状と課題について</li> </ol>
<p>伊勢純 (日本共産党)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 陸前高田市の子育て支援の取組みについて</li> <li>2 市内の若者の雇用対策と働きやすい職場支援について</li> <li>3 被災跡地買い取りに伴う介護利用料等の負担増について</li> </ol>
<p>中野貴徳</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 土砂災害危険箇所の対策について</li> <li>2 仮設店舗等の使用期限について</li> <li>3 災害公営住宅施設管理について</li> </ol>
<p>菅野定 (新風)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人口減少対策と地域活性化のための空き家の活用について</li> <li>2 地域を担う子どもたちの育成について</li> </ol>
<p>大坪涼子 (日本共産党)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 県立高田病院再建計画と本市の今後の地域医療について</li> <li>2 新しい住宅団地や災害公営住宅団地におけるコミュニティ形成について</li> <li>3 人口減少対策及び定住促進策について</li> </ol>
<p>三井俊介 (新風)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 交流、定住人口について</li> <li>2 「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりアクションプラン」について</li> <li>3 当市におけるNPOと行政の今後のあり方について</li> </ol>
<p>佐々木一義 (創生会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 命を守る防災について</li> <li>2 地域製品のブランド化について</li> <li>3 区画整理の見直しについて</li> </ol>
<p>藤倉泰治 (日本共産党)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 J R大船渡線と陸前高田駅の復旧・再建について</li> <li>2 本市の国保会計と国保税引き下げについて</li> <li>3 本市の重要水防箇所の治水対策について</li> </ol>
<p>福田利喜 (創生会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域防災について</li> <li>2 低地の利活用について</li> <li>3 応急仮設住宅について</li> </ol>
<p>清水幸男 (新政会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 陸前高田ふるさと納税について</li> <li>2 県立野外活動センター整備促進計画について</li> </ol>



鵜 浦 昌 也  
(創生会)

## マイナンバー制度の進ちよく状況は

**質問** マイナンバー制度の導入に向けた進ちよく状況はどうか。

**答弁** 庁内で各課担当者の調整会議を繰り返し、情報の共有や各種システムの改修を図っている。  
また、ネットワークのセキ



マイナンバー制度説明会

ユリテイ強化を行うほか、全職員を対象に制度の理解を深める研修会を開催している。  
今後は、10月5日からの制度施行による個人番号の通知、来年1月1日から施行される個人番号カードの発行などに手落ちがないよう進めていきたい。市民から様々な問い合わせが寄せられると思うが、窓口で丁寧に対応し、説明していきたい。

## 地方創生に関する計画の策定期間は

**質問** 地方創生事業に関する人口ビジョンと総合戦略の策定期間の見直しはどうか。

**答弁** 外部から意見提言をいたただこうと策定会議を設置している。今後は素案をまとめ、年明けにパブリックコメントを行った上で年度末の策定を考えている。

**質問** 内容によっては広域連携も必要と思うが、どのように考えているか。

**答弁** 一つは、三陸ジオパークなどの

観光資源を活用し、防災教育と食を組み合わせた広域観光の強化による交流人口の拡大。二つ目は、三陸の豊かな自然や食を発信しながら三陸ブランドの推進。三つ目は三陸沿岸道路や重点道の駅、三陸鉄道など、交通インフラの利活用のほか、平成31年に釜石市で開かれるラグビーのワールドカップを見据えた取組みを推進していく。

## 小中学生の全国学力テスト結果は

**質問** 今春行われた全国学力テストについて、本市小中学生の結果をどのようにとらえているか。

**答弁** 本市では、いずれも概ね全国と同等の状況だった。しかし、学習習慣や生活習慣に関する調査結果では、小学生のテレビ視聴時間が長いことや中学生の学習時間が短いことが分かった。  
今回の結果を詳細に分析して児童生徒の学力向上に努め、保護者と一体となりながら生活習慣の改善にも取り組んでいきたい。

## 区画整理事業の進ちよくと課題は

**質問** 今泉地区の区画整理事業が遅れるようだが、どのような対処をしていくのか。

**答弁** 土地引き渡しは、1年ほど遅れて、29年度になる見通しである。これ以上遅れが出ないように、UR、清水JVとともに努力していく。

**質問** 「二日も早い復興を」が被災者の声であるが、造成工事がさらに加速するような



丹 野 紀 雄  
(翔英会)



今泉地区の区画整理事業

手立てを何か考えられないか。  
**答弁** ベルトコンベアの上砂運搬などで、工期は大幅に短縮されたが、※ファスト・トラック方式により、工事のスピードアップを図っている。

## 消防団の現状と課題は

**質問** 消防団員確保の対応はどうか。

**答弁** 県内13市の中では、団員加入率が高いが、定員に達していない。新たに開設する消防団のホームページを活用して、加入促進を図る。

**質問** 震災で多くの消防団員が犠牲になったが、団員の安全確保はどうなっているか。

**答弁** 「地震災害活動マニュアル」を作成し、活動基準を定め、運用を行っている。また、団員全員に、デジタル無線機を貸与し、情報連絡を容易にするように努めている。

**質問** 高田、気仙の分団屯所建設はどうなっているのか。

**答弁** 市内の新築または計画された屯所以外の高田・気仙の6カ所は、高台移転の進ちよくを見ながら早急に行う。

※ファスト・トラック方式  
全ての設計を待たずに、設計が終わった部分から順次施工する方式。



及川修一  
(新風)

## 新しいコミュニティと 公民館建設への支援は

**質問** 被災者の移転で著しく人口が増えた地域の公民館では、靴を脱ぐスペースもないような状態で、コミュニティ活動に支障をきたしている。公民館の増改築を考えているところもあるが、自治会に入る方と迎える方に確執な

ど起きないように、公民館建設に支援をすべきと思うがどうか。

**答弁** 震災で移転された方と既存の住民が新たな自治会などの形成を図るためには、自治会館の整備は重要な役割を果たす。地域の方々との話し合いを重ねながら、地域の状況や計画などの把握に努める。併せて支援制度の拡充についても検討を進め、支援を行っていきたい。

**質問** 人口の増減による行政区の見直しを考えていく。

**答弁** 効率性などを勘案し、

## JR大船渡線 復旧方針案は



世帯、戸数が急増した小友町松山地区

## 復旧方針案は

**質問** JR大船渡線がBRTにより復旧となった場合、これまでの線路敷は使われなくなり、米崎地区から小友地区の海で働く方々の避難路の整備ができると思うがどうか。

**答弁** BRTとなれば、津波からの安全などを考慮

し、線路敷は使用しないと思う。敷地所有者の了解を得られれば、避難路として確保することは可能と考える。

**質問** BRTの高田高校前の駅は、建物もなく、高校生が雨に濡れたりしている。何らかの手立ては考えられないか。

**答弁** JR東日本と話し合いをしていて、近々屋根の設置などをしていただくことになっている。

## 復興関連の 財源見直しは

**質問** 震災復興展開期も2年を迎え、復興関連予算の地元負担が決定された。その金額はどの程度か、本市に与える影響はどうか。

**答弁** 実質負担額は、約2億円と想定している。一般財源には限りがあることから、少なからず影響があるものと認識している。

**質問** 本市の復興には財源の地元負担は軽減してほしいがどのようにするのか。

**答弁** 負担軽減を講じていただくよう機会をとらえて国への要望をしていく。



伊勢純  
(日本共産党)

## 子育て支援の前進を

**質問** 国の「地方創生先行型事業」を受けた本市の新しい子育て支援はどうか。

**答弁** 子ども医療費無料化を15歳まで広げ、就学前までの子育て応援券支給、また助産師などによる妊婦訪問事業や幼児期のフツ素塗布数を増

やし虫歯予防などに取り組む。

**質問** 子ども医療費の無料化は、窓口での支払いがゼロになる取組みはどうか。

**答弁** 保育料の軽減は保護者の要望も強い。市の考えはどうか。

**質問** 医療費の現物給付は来年8月を目途に未就学児と妊産婦を対象に行われる。

**答弁** 保育料や子ども医療費、学童保育にも市独自の支援をしているが、どのような軽減が本当に効果のある子育て支援になるのか検討する。

**質問** 子育て世代と対話をさらに進めるべきではないか。

**答弁** 今後も進めたい。

## 若者の雇用対策と 働きやすい職場へ支援を

**質問** 国の地方創生事業による青年の雇用対策はどうか。

**答弁** 「まち・ひと・しごと総合戦略」で、インターンシップ(学生の職場体験)、首都圏などからのUターン・Iターン者への支援や資格取得などによる就業支援を検討している。

**質問** 若者の休暇や働きやすい職場環境をどのように把握しているか。



岩手県内で2番目に高い求人倍率の気仙地区(気仙町)



**答弁** 労働時間や休暇制度などの充実が大切である。市内事業所の訪問など、労働条件等の把握に努め、職場環境の充実に向けた啓発を進める。

**質問** 人手不足の介護現場などでの人件費に市の上乗せなども進めるべきではないか。

**答弁** 若者の労働条件の改善は進める必要があるが、「まち・ひと・しごと」の中で行政ができることを検討したい。

## 被災跡地

### 買い取りの問題は

**質問** 被災跡地買い取りで、以前の非課税世帯に対する施設利用料等の年間約100万円負担増が続いており解決が求められる。状況はどうか。

**答弁** 本年度、被災者の介護保険料増額は約250名、介護入所施設で6名、短期入所施設で7名である。

市は、被災者の在宅サービス、施設等の入所保険給付の一部負担金の免除を行っており、県や国へさらなる改善を要望している。

現在、国は県を通じて市町村の実態調査中で、今後の検討を期待している。



中野 貴 徳

## 仮設店舗の

### 使用期限は

**質問** 被災した事業者へ中小機構が用意した仮設施設が間もなく使用期限の5年を迎える。本設移転の意欲がありながら造成工事や新店舗の建築等、時間的に間に合わない場合の対応はどうか。

**答弁** 移転するという事を

## 災害公営住宅施設 管理のありかたは

5年以内に決定し1年以内に対応すれば、現制度では5年以内の退去と同じ扱いとなっている。仮設施設ごとにそれぞれ状況が異なっていることから、期限を迎える施設ごとに時機を見ながら適切に対応していく。

**質問** 災害公営住宅について本市発注の物件と、県が発注し完成後、本市に移譲される物件では違いがあるのか。

**答弁** 本市においては県の方針及び設計標準に基づき、設計を実施するようUR都市再生機構に指示を行っている。そのため基本的な建物の性能や設備等に大きな差異はなく、家賃についても、公営住宅法に基づき基本的な算定方法により違いが生じないよう努めている。

途中までとなっている急傾斜地の対策工事



**質問** 施設管理における迅速な不具合解消に向けた対応はどのようにするのか。

**答弁** 本年4月、

市営住宅の維持管理に指定管理者制度を導入し、24時間365日体制で対応している。しかし、エレベータについては特殊な構造で専門性が問われ、保守点検業者は沿岸部の拠点が宮古市にあるため対応に時間がかかる。今後、迅速な対応ができる体制の確立について要望している。

## 土砂災害危険箇所の 対策について

**質問** 市内各所にある土砂災害危険箇所の災害防止対策についてどの様になっているか。

**答弁** 市内の土砂災害危険箇所665カ所のうち、対策工事が完了した箇所は21カ所となっており、全てのハード整備には、膨大な時間と費用が必要となる。ソフト対策として、地域の危険箇所を確認できるように各地区コミュニティセンターに掲示したり、本年度中には、土砂災害警戒区域等を示した、「土砂災害・洪水ハザードマップ」の改訂を予定。説明会および、市内全世帯へ配布し、土砂災害に対する理解を深める機会を設けていく。

## 気仙地区議会議員 協議会 総会

第50回気仙地区議会議員協議会総会が8月4日、市内で開催され、陸前高田市、大船渡市、住田町の議会議員が参加しました。

総会では、2市1町の議会、協議会会長提出の平成27年度対県要望の議案9件を審議し、全員の賛成をもって、全ての案件を県に要望することが確認されました。本市議会からの要望は、「東日本大震災からの早期復旧、復興について」「主要幹線道路等の整備」「JR大船渡線の早期復旧」の3件です。

総会終了後は研修会を開催し、講師として前佐賀県武雄市長の樋渡啓佑氏を招き、「地方創生、地方活性化について」と題した講演が行われました。



総会の様子



菅野 定  
(新 風)

## 人口減少対策・地域活性化 に空き家の活用を

**質問** 空き家への移住・定住の施策をどうするのか。

**答弁** 「まち・ひと・しごと総合戦略」において、移住・定住支援策を推進していく。「なぜ移住してきたのか」を調べて「空き家バンク制度」の開設を検討し、移住のための相談員の配置、支援施策を推進したい。

また、NPO等と力を合わせ「お試し居住」を進め、移



生きる力をはぐくむ体験学習

住・定住支援策を模索したい。  
**質問** 仮設住宅を「お試し住宅」に活用できないのか。

**答弁** 「お試し住宅」とするのは難しい。一方で仮設住宅の利用がなくなる時に防災を学ぶ一つとして、一定の仮設住宅を残し、「被災者がどう思うか」で生活されたかを体験できる宿泊施設にしたいとも考えている。

## 「生きる力」を身につける 教育にするには

**質問** キャリア教育を小・中・高と進めてはどうか。

**答弁** キャリア教育を含め、すべての教育活動に、小・中学校と連携・指導することで系統性を強めたい。

**質問** 「キャリアノート」を取り入れてはどうか。

**答弁** キャリアノートを系統的に進める点が良いと認識して、その長所の部分の検証を含め、検討して行きたい。

**質問** 防災教育と道德教育に、大人と子どもが一緒に取り組んではどうか。

**答弁** 災害時、「家庭の約束事・決め事」の話合いを通じて、道德教育・防災教育での親子体験を深めて行きたい。



大坪 涼子  
(日本共産党)

## 福祉・介護連携の 地域医療を

**質問** 県立高田病院と隣接する保健福祉総合センターの整備状況はどうか。

**答弁** 県立病院は本格的に掘削土砂の運搬が行われ、平成29年度内開院を目指している。市の保健福祉総合センターは基本構想を策定中であ



県立高田病院の工事

り、県立病院と効果的に連携できるように、病院開院に合わせ運営できるようにしたい。

**質問** 県立病院の病床数や診療科等の計画はどうか。

**答弁** 1病棟で病床数は50〜60床程度、内科、外科を基本とし、これまでの診療機能は維持する。リハビリ機能は入院患者中心に維持期のリハビリを提供する。

**質問** 保健福祉総合センターの機能と役割はどうか。

**答弁** 医療、保健、福祉、介護等の専門的な知識をもつ職員がきめ細かい相談等に応じ、ワンストップで総合的な相談支援体制をとる。

**質問** 病院と保健センターが同敷地内に整備されるが、地域医療や介護などの市の構想はどうか。

**答弁** これまでの各分野の活動の中で、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネージャー等の専門職種で「陸前高田の在宅療養を支える会」が結成され活動している。今後、医療・介護・保健・福祉各分野が連携しながら健康づくり、地域づくりが重要と考えている。

## 新しい団地での コミュニティ形成を

**質問** コミュニティをスムーズに進めるためにも、入居前の顔合わせや交流等の支援はどうか。

**答弁** 入居後の不安解消等にどのような支援が必要か検討している。

**質問** 一人暮らしや高齢者世帯への特別な配慮はどうか。

**答弁** 市内4団地188世帯のうち単身世帯が83世帯、高齢者世帯が70世帯、高齢単身が48世帯である。今年4月に下和野団地に市民交流プラザを開設し、常駐の在宅医療と介護の専門職で訪問している。

## 移住する方に あたたかい支援を

**質問** 「ふるさと定住支援事業」について、すでに震災後に住宅を建て移住の人も対象にできないのか。

**答弁** 今年4月から5年間のうちに住宅を取得し転入した方を対象に100万円を商品券で助成している。それ以前に定住された方については予算を留めて拡充を検討したい。



三井俊介  
(新風)

## 交流、定住人口への 取組みはいかに

**質問** 交流人口の具体的な目標はあるか。

**答弁** 現時点では交流人口の目標設定は検討中である。今後5年間の終盤には、仙台までの三陸縦貫自動車道が供用開始される予定であり、高田松原地区の震災復興記念公



黒崎展望台からの眺め

園や重点道の駅の完成なども見込まれるなど、交流人口の一層の拡大が期待される。

**質問** 交流人口の目に見える成果とはどのようなものを想定しているか。

**答弁** これから目指すのは、少なくとも1日は滞在、あるいは宿泊し、経済活動につながるような交流人口である。

**質問** 環境省が行っている「みちのく潮風トレイル」への本市の関わり方はどうか。

**答弁** 市内における路線の設定については、蛇ヶ崎園地や黒崎仙峡、オートキャンプ場モビリア、箱根山展望台などを興味地点とし、環境省東北地方環境事務所と共に、検討したいと考えている。

**質問** 広田町の黒崎温泉から六ヶ浦にかけてある遊歩道の利用についてはどうか。

**答弁** 興味地点をつなぐ形で、今ある遊歩道などを設定していきたいと考えている。

## 行政とNPOの 関わりはいかに

**質問** NPO法人に期待するまちづくりの役割はなにか。

**答弁** 本市の復興に向けたまちづくりのパートナーとして、今後想定される協働事業の推進をはじめ、活動場所の提供など、NPO活動のそれぞれの取組みに応じて幅広く対応できるよう、庁内の関係部局との連携を密にしたいと考えている。

## まちづくりアクション プランの進め方は

**質問** 「ノーマライゼーション」という言葉のいらぬまちづくりアクションプランの実現のために何が一番大切か。

**答弁** なにより住民の皆さんにご理解いただくこと、またそこに関してNPOの皆さんに活躍していただきたいと考えている。

できることを積極的に提案いただければ、市では支援を検討する。本市がより発展を行っていくために行政と両輪で行っていかれると思っている。



清水幸男  
(新政会)

## 陸前高田ふるさと納税

**質問** 今年7月から開始した陸前高田ふるさと納税「がんばっぺし応援寄附金」の状況と希望する使途項目はどうか。

**答弁** 9月末で約4千万円と多額となっており、使途では子供支援・故郷づくり・産業振興への要望が多い。

**質問** お礼品の状況はどうか。

**答弁** 人気のお礼品は、海産物・加工品・たかたのゆめ・サイダー・ジュース等と地場産品が求められている。

**質問** お礼品の発送を福祉施設利用者に委託しているがその状況はどうか。

**答弁** 本市の特徴として、お礼品の発送、梱包業務を高齢者や就労支援施設の方々にお願いしており、就労支援を通じた「生きがいづくり」にも役立っている。

## 県立野外活動センターの計画

**質問** 計画の野外活動センターの早期着工に向けた協議と見通しはどうか。

**答弁** 県では、野外活動センターの再建について、昨年9月に広田半島への移転新築に係る協議が整い、海洋型施設整備を重点項目に、基本構想の策定に着手し準備を進めるとしている。次年度には検討委員会の設置や設計業務委託を予定との事であり、この大型プロジェクトの整備計画が早期に示され、事業の進捗がよくが図られるよう引き続き要望する。



野外活動センターの移転候補地



義 一 佐々木  
(創生会)

### 命を守る防災について

**質問** 東日本大震災から学んだ教訓は何か。

**答弁** 自然の猛威から命を守るには、「避難が何より重要」である。

**質問** 災害に強い安全なまちづくりの基本方向の第一は何か。

**答弁** 市街地や住宅地を津波による浸水から免れるよう



高田松原津波復興祈念公園の予定地

に、高台やかさ上げ地に整備防潮堤や水門などの海岸保全施設の整備を進める。

**質問** 復興祈念公園などへの来訪者の安全確保は。

**答弁** 有識者委員会で議論されており、今年度の基本設計の中で具体化の予定である。

**質問** 鎮魂・祈りの場を海に近い場所に設置するよりも高台に設ける事が望ましいと思うがどうか。

**答弁** 祈りの形や方法は、人それぞれであり、本年8月に国が国道45号の南側、タピック45から気仙川の間に整備する祈念公園のエリア内が望ましいと示されている。

### 地域産品のブランド化について

**質問** 「たかたのゆめ」をブランド化へ進めるために、どのような手法で確立を行っているのか。

**答弁** 市長がトップセールスとして関係機関と連携しながらブランド化を進めていく。

**質問** 栽培数量・販路・価格等はどうか。

**答弁** 33農家が作付

けた52ヘクタールの全てを減農薬・減化学肥料の特別栽培米としてスタート。一部の復旧田で生育不良があり、慣行栽培に切替えたものもあるが、240トン目標として、J A大船渡で取りまとめている。

**質問** J A大船渡の系統出荷を主としていますが、27年度米から自家消費枠を設ける。

**質問** その他の産品のブランド化はどうか。

ユズをはじめ、浜田川地区の大規模園芸施設で栽培した「恋するトマト」は市場からも高い評価を得ている。エゾイシカゲ貝は広田湾漁協養殖漁業者連絡協議会を設置し、技術の向上と安定した生産出荷に取り組む。

### 区画整理内の固定資産税について

**質問** 区画整理事業区域内に空き地が多く発生すると考えられるが、見直しの必要はないか。また、固定資産税の増額が予測されるがどうか。

**答弁** 意向確認結果を基にしているの見直しはしない。また、税は特例で平成33年度まで「みなし所有」措置とし減免する。



治 泰 倉 藤  
(日本共産党)

### 当面、陸前高田駅まで復旧を

**質問** JR案では、大震災最大の被災地・陸前高田市が鉄道も駅もないまちなになってしまふ。市の考えはどうか。

**答弁** JRから持続可能な交通手段としてBRTの提案があった。JRでは鉄道を復旧しても利用しないことを気にしている。

**質問** JRでは大船渡線の

「利用者減」「赤字」を理由にしているが、多くの沿岸住民は、東北新幹線を利用し、年3,500億円の経常利益に貢献している。JR東日本は日本のトップ企業であり、被災地のために社会的責任を果たすべきと思う。JR側と一致できる案として、当面、陸前高田駅までは鉄道で復旧させることはどうか。

**答弁** 市民にはBRTが便利という意見もある。しかし、新しいまちづくりには鉄道は重要である。市民の間から「陸前高田駅まで」という意見もあつたことや議会での意見をもって、年内予定の「沿線首長会議」の議論の場に臨みたい。

### 基金等をもとに

### 国保税の引き下げを

**質問** 4億2千万円の国保基金や、今年度以降の新たな国の支援金の一部を財源に国保税の引き下げはどうか。

**答弁** 今年度、国から約2千万円や、平成29年度からの交付金も予定されているが、震災に伴う特別調整交付



震災前の列車と JR 竹駒駅

金が今年度で終了し、平成28年度以降の財政状況が厳しく、国保税の引き下げを検討すべき時期ではない。

## 重要水防箇所の緊急対策を

**質問** 気仙川や矢作川など市内22カ所の重要水防箇所における緊急事態を予測した応急工事が必要ではないか。

**答弁** 河川管理者である岩手県に対し改修事業の早期完了を強く要望する。

**質問** 洪水被害を想定し住民の避難態勢を早急に考えるべきではないか。

**答弁** これまでのハザードマップには重要水防箇所の記載がなかったが、水防法一部改正により、県でも最大規模の洪水区域の公表に向け見直し作業に着手し、本市でも本年度末までに、土砂災害警戒区域や重要水防箇所を加えた「ハザードマップ」を改訂し、住民説明会や全世帯配布を考えている。



福田 利 喜  
(創生会)

## 学校施設に建つ 応急仮設住宅団地の見直しは

**質問** 応急仮設住宅の入居率が低くなっている地域があるが、今後の応急仮設住宅の管理運営についてどのように考えているか。

**答弁** 住宅再建意向調査で行った結果を踏まえ、応急仮設住宅の団地毎に、シミュレ



教育環境からも検討が必要な仮設住宅団地

ーションする作業に着手しており、仮設住宅の集約化計画を策定することとしている。

**質問** 復興庁より学校施設からの応急仮設住宅団地の早期撤去を要請されたが、本市ではどのようにする計画か。

## 地域防災計画の見直しは

### 見直しは

**質問** 地域防災計画に地域の考え方を盛り込むことができるように地区防災計画制度が施行されたが、不備も散見される地域防災計画を見直す考えはないか。

**答弁** 今年度中に見直し作業に着手し、来年度には、「地区防災計画」の内容も含めた「災害対策基本法」の改正部分と、昨年度末に策定した「避難マニュアル」等の内容を反映させ、本市の実情に即した計画として見

直しを図る。

**質問** 東日本大震災を経験した本市だからこそ、検証を基に計画を改正するべきではないか。

**答弁** 改正の順番が違ったところがあるが、検証結果等も盛り込んでいきたい。

## 浸水域の活用計画は

**質問** 低地利用計画策定においてどのような手法を用いて計画策定を行っているか。また、住民の関わり方は今後どのような形を考えているか。

**答弁** ワークショップ形式と呼ばれる手法により、復旧復興事業の計画を示した上で参加者の意見を取りまとめ、その結果をフィードバックし、再度意見をいただき、案としてまとめようとしている。

今後の計画への関わり方としては、地区のコミュニティ推進協議会との連携を図る。そして、事業の進展等を明確にし、各々の立場で計画に関わるよう協働のまちづくりのあり方を検討していきたい。

## 復興工事現場を調査 復興対策特別委員会

復興対策特別委員会は、10月16日に復興事業の現地調査を行いました。

高田松原地区は、海岸防潮堤が11・7メートルの高さまで工事が進み、海岸(砂浜)再生事業、(災害復旧)地区は、今秋からの養浜、来年度は試験植栽の予定と説明を受けました。

気仙川水門は6基の堰柱整備のうち、西側4基の工事が進んでいました。

今泉の区画整理事業は高台⑤・⑥造成の土砂運搬が終了。高田地区はかさ上げ盛り土7割の工事まで進み、今年12月中旬には鳴石から和野までの道路がかさ上げ地に切り換わる予定です。



かさ上げ工事現場を視察

# 議案の審議・結果 （9月定例会）

平成27年第3回定例会は、10月1日から20日まで行いました。開会初日に報告2件、執行前提案8件を即決。そのほかの執行前提案1件、条例案5件、27年度補正予算案6件、26年度決算案8件を決算等特別委員会（福田利喜委員長）に付託しました。その後の審査を経て、追加提案された6件を含めた全議案を原案可決、認定しました。

## ◆27年度補正予算可決

27年度の一般会計補正予算（第3号）は、歳入歳出予算の総額に8億6144万円を追加し、総額を1248億6892万円とする内容。歳出の主なものは、ふるさと納税活用事業費1億2855万円、自治会館等整備事業費2150万円などでした。

## ◆26年度決算を認定

26年度の各種会計決算は、一般会計と特別会計を合わせた歳入総額が前年度比17・5%減の1160億9972万円で、歳出総額が同16・3%減の

## ◆復興関連議案など可決

高田東中学校新築工事の変更請負契約締結は、部室や柔剣道場の追加工事に伴うもので、契約金額を2億1740万円増の30億6860万円としました。

市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例は、高田地区の整備計画区域に適用するもので、垣や柵の構造などを制限し、適正な都市機能や健全な環境を確保しようという内容です。

1123億5062万円となりました。その結果、決算収支は37億4909万円、実質収支は23億6796万円のいずれも黒字となりました。

## 提出議案及び審議結果（平成27年第3回定例会）

報告第1号	平成26年度陸前高田市健全化判断比率の報告について	報告	議案第18号	平成27年度陸前高田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	原案可決
報告第2号	平成26年度陸前高田市資金不足比率の報告について	〃	議案第19号	平成27年度陸前高田市介護保険特別会計補正予算（第3号）	〃
議案第1号	市道路線の変更について	原案可決	議案第20号	平成27年度陸前高田市水道事業会計補正予算（第2号）	〃
議案第2号	市道路線の認定について	〃	議案第21号	平成26年度陸前高田市一般会計歳入歳出決算	認定
議案第3号	字の区域変更について	〃	議案第22号	平成26年度陸前高田市下水道事業特別会計歳入歳出決算	〃
議案第4号	陸前高田市被災市街地復興整備事業の変更業務委託契約締結について	〃	議案第23号	平成26年度陸前高田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算	〃
議案第5号	津波復興拠点整備事業高田北地区（西区）公園整備工事の変更請負契約締結について	〃	議案第24号	平成26年度陸前高田市漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算	〃
議案第6号	防災集団移転促進事業泊第一住宅団地整備工事及び防災集団移転促進事業泊第三住宅団地整備工事の変更請負契約締結について	〃	議案第25号	平成26年度陸前高田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算	〃
議案第7号	防災集団移転促進事業協の沢住宅団地整備工事（北工区）等の変更請負契約締結について	〃	議案第26号	平成26年度陸前高田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	〃
議案第8号	市立高田東中学校新築工事の変更請負契約締結について	〃	議案第27号	平成26年度陸前高田市介護保険特別会計歳入歳出決算	〃
議案第9号	損害賠償の額を定め和解することについて	〃	議案第28号	平成26年度陸前高田市水道事業会計決算	〃
議案第10号	陸前高田市溜池の設置、管理に関する条例の一部を改正する条例	〃	議案第29号	災害公営住宅譲渡契約の変更契約締結について	原案可決
議案第11号	陸前高田市建築協定条例の一部を改正する条例	〃	議案第30号	災害公営住宅譲渡契約の変更契約締結について	〃
議案第12号	陸前高田市都市公園条例の一部を改正する条例	〃	議案第31号	災害公営住宅の譲渡契約締結について	〃
議案第13号	陸前高田市暴力団排除条例	〃	議案第32号	災害公営住宅の譲渡契約締結について	〃
議案第14号	陸前高田市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例	〃	議案第33号	財産の取得について	〃
議案第15号	平成27年度陸前高田市一般会計補正予算（第3号）	〃	議案第34号	陸前高田市市営住宅条例の一部を改正する条例	〃
議案第16号	平成27年度陸前高田市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	〃			
議案第17号	平成27年度陸前高田市漁業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	〃			

**【請願審査】**

今定例会に提出された請願第7号は、委員会審議を経て本会議にはかられました。  
請願第7号は全会一致で採択となりました。

請 願	請 願 者	請 願 の 趣 旨	結 果
<b>【請願第7号】</b> 被災者の医療費窓口負担免除の継続を求めることについて	米崎地区・被災者交流の会 代表世話人 金野ミエ子	本年12月末までとなっている被災者の医療費窓口負担の免除措置について、平成28年1月以降も継続していただくことを求めます。	採 択

**【発議】**

今定例会で提出した発議第7号は、質疑・討論を行ったあと、採決の結果、賛成多数で原案可決しました。

発 議	発 議 の 理 由 等	結 果
<b>【発議第7号】</b> 安保関連法の廃止を求める意見書の提出について	今国会で成立した安保関連法については、十分な審議を尽くしたうえで成立したとはいえ、国民に対し丁寧な説明をしたうえで、立憲主義を踏まえた国民的な合意を得る必要があることから、この法律の廃止を求めため、国の関連機関に対し、意見書を提出しようとして提案するものである。	原案可決

なお、発議第7号の採決にあつたては、討論が行われました。

賛 成 討 論	反 対 討 論
○伊勢 純（日本共産党） 安保関連法は、空前の規模で広がった国民の運動や世論に背いて成立させられました。 9条の下で許されないとする歴代政府の憲法解釈を転換し、集団的自衛権の名のもとに、日本が攻撃されずとも、アメリカの戦争に参加するものです。 また、憲法違反の法律で、成立も政府与党の数の力によるものです。立憲・民主主義のわが国の土台が覆されました。 憲法の下で成り立つ国政や地方の政治、さらに本市の議会においても許されるものではありません。	○大坂 俊（翔英会） 安保関連法は、国民の総意と言える国会において可決成立したものです。新設された各事態に対して各制度により定義し、自衛隊が活動できる内容や、国会承認の手続きの必要性などが盛り込まれており、法として国会において成立した事実は評価するべきと考えます。 また、本市議会においては、法の制度及び各事態について、なんらの議論もされておらず、よって本市議会として、国に対し廃止の意見書を提出するに及ばずと考えます。

**【表決が分かれた案件】**

	三井俊介	畠山恵美子	中野貴徳	蒲生哲	丹野紀雄	伊勢純	鶴浦昌也	菅野定	佐々木一義	大坂俊	菅原悟	大坪涼子	清水幸男	福田利喜	藤倉泰治	菅野稔	及川修一	伊藤明彦
発議第7号	○	×	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	議

※ 「○」は賛成、「×」は反対、「議」は議長のため、採否に参加せず。

# 復興のうごき

陸前高田市の復旧・復興で最も力を入れていることのひとつは、被災された方々の住まいの確保です。

高田・今泉地区では、まだまだ区画整理事業などが完成していない状況で仮設住宅などでの暮らしが長引いています。

そうした中で、市内の防災集団移転促進事業による高台移転は、512戸の予定戸数のうち、70%にあたる358戸分の宅地が完成しました。10月19日には、脇の沢団地が完成し、11月1日から住宅建築が可能となりました。



完成後は高田松原の復元が予定されている高田松原地区

また、区画整理事業などの進捗よくと合わせ、第一中学

校北側の高台②では、今年中に住宅建築が可能となる見込みです。

中心市街地となるかさ上げ地では、拠点となる大型店舗施設の着工が来年度初めの予定です。

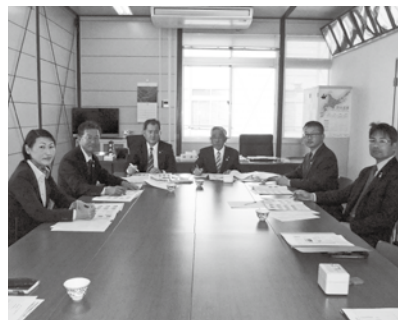
かさ上げ工事などの土砂運搬に使われたベルトコンベアは、解体作業に入っています。ダンプでの運搬に比べて約6年間の工事の短縮ができました。

岩石なども運ぶベルトは傷むこともあり、全国の技術者による深夜にも及ぶメンテナンスなどによって支え続けられてきました。

今後も市民の皆さんのご協力により、工事が進められます。

## 編集委員

小委員長	菅野 稔
副委員長	菅野 昌也
委員	島山 恵美子
同	中野 貴徳
同	伊勢 純
同	菅野 定



編集委員

## あとがき

今年は統一地方選挙の年にあたり、9月には市議会議員選挙が行われました。

結果として新人議員5人を含む18名が当選、各常任委員会など議会の構成も大幅に変わりました。

さて、「市議会だより」の編集は、平成25年9月から広報小委員会が担当しています。

私たちの編集体制は、6人中2人が新しい委員です。

表紙の写真は、10月11日に、中尊寺三陸郷土芸能奉演として本堂前で横田町観沢鑑念仏剣舞が奉演された場面です。

市民と議会の架け橋の役割を果たせるよう編集委員一同、新たな気持ちで頑張る所存であります。

議員手づくりの広報誌ですので、今後ともよろしくお願ひいたします。



## 8月～10月 議会のうごき

平成27年8月以降の議会の主な活動状況を次のとおりお知らせします。

### < 8月 >

- 4日 全員協議会  
気仙地区議会議員協議会総会

### < 9月 >

- 11日 議員懇談会
- 15日 会派代表者懇談会
- 16日 議員懇談会／議員研修会
- 18日 議員懇談会／第3回臨時会／全員協議会
- 28日 議会運営委員会

### < 10月 >

- 1日 第3回定例会（～20日）／全員協議会／復興対策特別委員会／議会広報広聴特別委員会／市政調査会／総務常任委員会／教育民生常任委員会／産業建設常任委員会／広聴小委員会／広報小委員会／ICT小委員会
- 7日 復興対策特別委員会理事会／議会広報広聴特別委員会理事会
- 8日 決算等特別委員会
- 9日 決算等特別委員会
- 13日 決算等特別委員会
- 14日 決算等特別委員会
- 15日 決算等特別委員会／議会運営委員会
- 16日 復興対策特別委員会／広聴小委員会／総務常任委員会／産業建設常任委員会
- 19日 教育民生常任委員会
- 20日 全員協議会／議会広報広聴特別委員会／市政調査会／広報小委員会
- 26日 広報小委員会
- 29日 議員研修会



## 議会を傍聴しませんか。

次の定例会は12月上旬に開会予定です。

また、災害FM（80.5MHz）で、本会議・特別委員会を放送しています。